

2013年8月期業績 および2014年8月期業績見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2013年8月期の業績、および
2014年8月期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 2013年8月期決算概要	P3	～	P15
II. 2014年8月期業績予想	P16	～	P24
III. ご参考資料	P25	～	P27

【資料文中のグループ事業の表示について】

各グループ事業の構成は、以下のとおりです。

(2013年8月期以降)

国内ユニクロ事業：株式会社ユニクロの数値が表示されています。

海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業：セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、
ジーユー事業、J Brand事業が含まれています。

(2012年8月期)

国内ユニクロ事業：株式会社ユニクロの数値が表示されています。

海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業：セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、
ジーユー事業が含まれています。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

【連結】2013年8月期実績

売上高 : 11,430億円 (前期比 +23.1%)
 営業利益 : 1,329億円 (前期比 + 5.1%)
 経常利益 : 1,489億円 (前期比 +19.0%)
 当期純利益 : 903億円 (前期比 +26.1%)

	2012年8月期	2013年8月期			
	通期実績	直近予想 (7/11)	通期実績	前期比	直近予想比
売上高 (売上比)	9,286 100.0%	11,030 100.0%	11,430 100.0%	+23.1%	+3.6%
売上総利益 (売上比)	4,754 51.2%	5,595 50.7%	5,640 49.3%	+18.6% ▲1.9p	+0.8% ▲1.4p
販管費 (売上比)	3,490 37.6%	4,120 37.4%	4,310 37.7%	+23.5% +0.1p	+4.6% +0.3p
営業利益 (売上比)	1,264 13.6%	1,475 13.4%	1,329 11.6%	+5.1% ▲2.0p	▲9.9% ▲1.8p
経常利益 (売上比)	1,252 13.5%	1,535 13.9%	1,489 13.0%	+19.0% ▲0.5p	▲2.9% ▲0.9p
当期純利益 (売上比)	716 7.7%	915 8.3%	903 7.9%	+26.1% +0.2p	▲1.2% ▲0.4p

単位:
億円

3

まず2013年8月期の連結業績ですが、
 売上高は1兆1,430億円、前期比23.1%増、
 営業利益は1,329億円、同5.1%増、
 経常利益は1,489億円、同19.0%増、
 当期純利益は903億円、同26.1%増となりました。

次のスライドで要因をご説明いたします。

売上高 1兆1,430億円(前年比+23.1%、2,143億円増収)

- ・海外ユニクロ事業 +980億円
- ・国内ユニクロ事業 +632億円
- ・グローバルブランド事業+532億円

売上高総利益率49.3%(前期比▲1.9p)

- ・国内ユニクロ事業 ▲1.8p

売上高販管費比率37.7%(前期比+0.1p)

営業利益 1,329億円、前期比5.1%増

経常利益 1,489億円、前期比19.0%増

- ・為替差益の増加により、営業外収支が前期比で172億円改善

当期純利益 903億円、前期比26.1%増

まず、売上高は1兆1,430億円と前期比23.1%増、2,143億円の増収となりました。その内訳ですが、海外ユニクロ事業が980億円の増収、国内ユニクロ事業が632億円の増収、グローバルブランド事業が532億円の増収となっております。

売上高総利益率は49.3%と、前期比1.9ポイント低下いたしました。粗利益率低下の主な要因としては、国内ユニクロ事業の粗利益率が同1.8ポイント低下したことがあげられます。

売上高販管費比率は37.7%と、前期比ほぼ横ばいとなりました。これらの結果、営業利益は1,329億円、前期比5.1%増の増益でした。

経常利益については1,489億円、前期比19.0%増と大幅な増益となっております。これは、8月末の為替レートが1ドル約98円と期首に比べ大幅な円安となったため、為替差益155億円が計上されたことにより、営業外収支が前期比172億円改善したことによりです。

当期純利益は903億円、前期比26.1%増となりました。

2013年8月期グループ事業別実績

単位: 億円

		2012年8月期	2013年8月期			
		通期実績	直近予想 (7/11)	通期実績	前期比	直近予想比
国内ユニクロ事業	売上高	6,200	6,730	6,833	+10.2%	+1.5%
	営業損益	1,023	1,060	968	▲5.4%	▲8.6%
	(売上比)	16.5%	15.8%	14.2%	▲2.3p	▲1.6p
海外ユニクロ事業	売上高	1,531	2,340	2,511	+64.0%	+7.3%
	営業損益	109	200	183	+66.8%	▲8.3%
	(売上比)	7.2%	8.5%	7.3%	+0.1p	▲1.2p
グローバルブランド事業	売上高	1,530	1,940	2,062	+34.8%	+6.3%
	営業損益	145	185	174	+20.1%	▲5.6%
	(売上比)	9.5%	9.5%	8.5%	▲1.0p	▲1.0p

注: 連結業績には上記のほか、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。

グループ事業別の業績は、こちらのスライドの通りです。

2013年8月期では、
国内ユニクロ事業の売上高は6,833億円、営業利益は968億円、
海外ユニクロ事業の売上高は2,511億円、営業利益は183億円、
グローバルブランド事業の売上高は2,062億円、営業利益は174億円
となっております。

国内ユニクロ事業では、増収減益となりましたが、海外ユニクロ事業、
グローバルブランド事業は増収増益を達成することができました。

増収減益

売上高：6,833億円(前期比 +10.2%)

営業利益：968億円(前期比 ▲5.4%)

単位：億円

	2012年8月期	2013年8月期			
	通期実績	直近予想 (7/11)	通期実績	前期比	直近予想比
売上高 (売上比)	6,200 100.0%	6,730 100.0%	6,833 100.0%	+10.2%	+1.5%
売上総利益 (売上比)	2,995 48.3%	3,220 47.8%	3,180 46.5%	+6.2% ▲1.8p	▲1.2% ▲1.3p
販管費 (売上比)	1,971 31.8%	2,160 32.1%	2,211 32.4%	+12.2% +0.6p	+2.4% +0.3p
営業利益 (売上比)	1,023 16.5%	1,060 15.8%	968 14.2%	▲5.4% ▲2.3p	▲8.6% ▲1.6p

6

ここからは各事業についてご説明いたします。

まず国内ユニクロ事業の通期業績ですが、売上高は6,833億円と、前期比10.2%の増収、営業利益は968億円と同5.4%の減益となりました。

詳細については、次のスライドでご説明させていただきます。

【国内ユニクロ事業】売上高の状況

2013年8月期：売上高6,833億円（前期比+10.2%）

既存店売上高 +7.3%（客数 +12.0%、客単価▲4.3%）

- ・コア商品（ヒートテック、ウルトラライトダウン、ウルトラストレッチジーンズ、エアリズム、レギンスパンツ、ステテコ&リラコなど）を中心に販売が好調
- ・課題であった客数増については、+12.0%と大幅に増加
- ・客単価減少：一品単価の低い商品（インナーウェア、レギンスパンツなど）の販売が好調

直営既存店 前年比	2013年8月期							9月
	上期	3Q	6月	7月	8月	下期	通期	
売上高	+3.6%	+9.3%	+20.5%	+5.5%	+28.9%	+12.6%	+7.3%	+4.4%
客数	+6.3%	+16.0%	+26.4%	+11.3%	+33.4%	+19.2%	+12.0%	+8.1%
客単価	▲2.5%	▲5.8%	▲4.6%	▲5.2%	▲3.4%	▲5.5%	▲4.3%	▲3.4%

ユニクロ直営店 2013年8月末 834店舗（FC店19店舗を除く）

- ・前期末比+10店舗

7

まず、国内ユニクロ事業の売上高についてご説明いたします。
売上高は前期比10.2%の増収でした。
これは主に、既存店売上高が7.3%増となったことによります。

既存店売上高が増収となったのは、年間を通して、ヒートテック、ウルトラライトダウン、ウルトラストレッチジーンズ、エアリズム、レギンスパンツ、ステテコ&リラコなどのコア商品が好調に推移したことによります。

また、今期は課題であった客数については、12.0%増と大幅に増やすことが出来ました。

一方で、客単価は4.3%減少いたしましたが、これは、一品単価の低いインナーウェア、レギンスパンツなどの販売が好調だったためです。

なお、2013年8月末における直営店舗数は834店舗と、前期末比で10店舗の増加となっております。

2013年8月期：売上高総利益率 46.5%（前期比▲1.8p）

下期の粗利益率が低下した要因

- ・顧客の価格志向が強く、値引き商品に人気が集中
- ・販売不振商品の大幅な売価変更を行ったため

	2012年8月期	2013年8月期	
			前期比
通 期	48.3%	46.5%	▲1.8p
上期	48.2%	46.7%	▲1.5p
下期	48.4%	46.3%	▲2.1p

8

売上高総利益率は通期で46.5%と、前期比1.8ポイント低下、下期6か月間では46.3%と前年同期比2.1ポイント低下いたしました。

下期の粗利益率が計画に対して大幅に下回った要因は、値引き販売や、値引き商品の品番数のコントロールを行ったものの、お客様の価格志向が強く、値引き商品に人気集中したことがあげられます。

7月の第3四半期決算発表での説明では、第4四半期は計画の粗利益率の水準を前提に売上高を伸ばすことによって、粗利額を拡大させることを計画していましたが、残念ながら第4四半期の粗利益率は計画を大きく下回る結果となっております。

これは、期末に向けて販売不振商品の大幅な売価変更を行い、消化を進めたためです。一方で、エアリズムやステテコ&リラコといったコア商品の販売は極めて好調に推移いたしました。

【国内ユニクロ事業】販管費

2013年8月期：売上高販管費比率 32.4% (前期比+0.6p)

- ・人件費(+0.3p)：4月より店長手当などの費用が増加
- ・広告宣伝費(+0.1p)：テレビCMやチラシ広告を戦略的に強化
- ・その他経費(+0.3p)：什器高層化による新什器等の購入、
1品単価低下による物流効率の低下

	2012年8月期		2013年8月期		増減額		単位： 億円
	通期実績	(売上比)	通期実績	(売上比)		(売上比)	
販管費合計	1,971	31.8%	2,211	32.4%	+239	+0.6p	
人件費	573	9.2%	647	9.5%	+74	+0.3p	
広告宣伝費	282	4.6%	322	4.7%	+40	+0.1p	
賃借料	439	7.1%	477	7.0%	+38	▲0.1p	
減価償却費	71	1.1%	69	1.0%	▲1	▲0.1p	
その他経費	605	9.8%	693	10.1%	+87	+0.3p	

9

売上高販管費比率は32.4%と、前期比0.6ポイント上昇いたしました。

対売上高比率で、人件費は0.3ポイント上昇いたしました。
これは、パート、アルバイトなどの店舗人件費を増やしたことと、
4月より店長手当を開始したことによる影響です。

対売上高比率で、広告宣伝費も0.1ポイント上昇しておりますが、
これは主に、テレビCMやチラシ広告を戦略的に増やしたことによります。

また、対売上高比率で、その他経費も0.3ポイント上昇いたしておりますが、
これは主に、什器高層化による新しい什器等の購入費用が発生したこと、1品
単価低下による物流効率の低下などの影響によるものです。

好調なアジアがけん引し、増収増益を達成

- ・アジアでは好調な増収増益が続く
- ・中国、台湾、韓国、東南アジアを中心に大量出店
- ・計画比では、韓国事業および米国事業が下振れ
- ・8月末の店舗数：+154店舗の446店舗まで拡大

単位：億円

		2012年8月期	2013年8月期			
		通期実績	直近予想 (7/11)	通期実績	前期比	直近予想比
海外ユニクロ事業	売上高	1,531	2,340	2,511	+64.0%	+7.3%
	営業利益	109	200	183	+66.8%	▲8.3%
	(売上比)	7.2%	8.5%	7.3%	+0.1p	▲1.2p

10

次に、海外ユニクロ事業ですが、売上高は2,511億円、前期比64.0%増、営業利益は183億円、同66.8%増と大幅な増収増益となりました。

アジアを中心に、好調な既存店売上高の伸びが続いていること、中国、台湾、韓国、東南アジアを中心として大量出店が継続していることが、大幅な増収増益の要因です。

海外ユニクロの営業利益が直近計画より下回った要因としては、主に韓国事業および米国事業が下振れたことによります。
米国事業は、円安により円ベースでの赤字幅が計画より拡大したことも影響し、赤字幅は前年並みに留まる結果でした。

なお、海外ユニクロ事業全体では、8月末の店舗数は前期末比154店舗増の446店舗まで拡大いたしました。

各エリアの業績トレンド

- ・中華圏：大幅な増収増益を達成
売上高は1,250億円、営業利益は135億円
既存店売上高の増収が続く、店舗数は102店舗増
- ・韓国：増収増益も、営業利益は計画未達
下期は天候不順や景気低迷の影響により減益
店舗数は25店舗増
- ・東南アジア地区：計画を上回る増収増益
好調な売上トレンドが続く、22店舗を出店、39店舗まで拡大
- ・米国：赤字額はほぼ前年と同水準に留まる
春物販売の不振、2013年秋の新店10店舗の出店費用
- ・欧州：計画通り、ほぼブレイクイーブン

11

次に、各エリアの業績トレンドですが、

中国、香港、台湾といった中華圏の売上高は1,250億円、営業利益は135億円となりました。既存店売上高の増収が続いていること、店舗数が前期末比102店舗増えたことにより、増収増益を達成いたしました。8月末の中華圏の店舗数は280店舗に達しております。

韓国も増収増益を達成いたしました。営業利益は計画未達となっております。上期の業績は好調に推移したものの、下期は天候不順や景気低迷の影響により、計画を下回る減益の結果でした。通期では、25店舗を出店し、8月末の店舗数は105店舗に達しております。

シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシアといった東南アジア地区では、好調な売上トレンドが続く、計画を上回る増収増益を達成いたしました。店舗数も22店舗を出店、8月末には39店舗まで拡大しております。

米国では、4店舗出店したことにより、増収となりましたが、赤字幅は前年とほぼ同水準に留まる結果となっております。これは、天候不順による春物販売の不振、2013年秋に予定されている新店10店舗の出店費用、円安により円ベースでの赤字額が拡大した影響などによります。ただし、8月、9月の足元の既存店売上高は増収に転じるなど、秋冬シーズンの立ち上がりはまずまずとなっております。

英国、フランス、ロシアといった欧州ユニクロでは、計画通り、ほぼブレイクイーブンの結果となっております。

ジーユー、セオリーは過去最高益を更新

- ・ジーユー事業：増収増益
売上高は837億円、営業利益は76億円
- ・セオリー事業：通期で増収増益、過去最高の業績を更新
- ・CDC事業：営業利益は計画を下回り、減益
- ・J Brand事業：営業利益は計画を下回る

単位：億円

		2012年8月期	2013年8月期			
		通期実績	直近予想 (7/11)	通期実績	前期比	直近予想比
グローバルブランド事業	売上高	1,530	1,940	2,062	+34.8%	+6.3%
	営業損益	145	185	174	+20.1%	▲5.6%
	(売上比)	9.5%	9.5%	8.5%	▲1.0p	▲1.0p

12

グローバルブランド事業の売上高は2,062億円、前期比34.8%増、営業利益は174億円、20.1%増と、増収増益となりました。

ジーユー事業の2013年8月期の売上高は、前期の約580億円から837億円へ、営業利益は約50億円から76億円と、増収増益を達成いたしました。
既存店売上高の2ケタ増収が続いたこと、店舗数が38店舗増えたことにより高い成長が続いております。

セオリー事業につきましては、通期で増収増益を達成し、過去最高の業績を更新いたしました。

コントワー・デ・コトニエ事業の売上高は増収となりましたが、営業利益は計画を下回り、減益となりました。

J Brand事業は売上高は計画通りでしたが、営業利益は計画を下回っております。

【連結】2013年8月末 B/S

単位：億円

	2012年8月末	2013年8月末	増 減
総資産	5,951	8,858	+2,906
流動資産	4,245	6,401	+2,155
固定資産	1,705	2,456	+751
負債	2,002	3,062	+1,059
純資産	3,948	5,795	+1,846

13

次に2013年8月末のバランスシートの説明をいたします。

総資産は8,858億円と、前期比2,906億円増加いたしました。

これは、流動資産が同2,155億円増加したこと、および固定資産が同751億円増加したためです。

これを受けて、純資産は1,846億円増加いたしました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前期末比)

流動資産の増加 +2,155億円 (4,245億円 ⇒ 6,401億円)

・現金・預金及び有価証券の増加 +296億円 (2,660億円 ⇒ 2,956億円)

・たな卸資産の増加 +676億円 (989億円⇒1,666億円)

【国内ユニクロ事業】+208億円

店舗什器の高層化による店頭在庫増、通年で販売する定番商品の増加

【海外ユニクロ事業】+385億円 店舗数が前期末比で154店舗増加

【グローバルブランド事業】+71億円

ジーユー事業、セオリー事業の事業拡大による在庫増、J Brandの在庫を連結

・為替予約勘定:負債から資産 +1,362億円 (負債226億円⇒資産1,136億円)

【国内ユニクロ事業】8月末レートが保有する為替予約の平均レートより円安
ヘッジ会計適用のため損益への影響なし

固定資産の増加 +751億円 (1,705億円 ⇒ 2,456億円)

・有形固定資産の増加 +211億円 (692億円 ⇒ 904億円)

【海外ユニクロ】前期末比154店舗の増加【グローバルブランド】同65店舗の増加

・無形固定資産の増加 +398億円 (382億円 ⇒ 781億円)

【グローバルブランド事業】J Brandを連結

14

まず、流動資産が2,155億円増加した要因をご説明いたします。

現金・預金及び有価証券の合計額は2,956億円と、前期末比で296億円増加いたしました。これは、国内ユニクロ事業をはじめとする各事業の営業キャッシュ・フローが増加したことによります。

期末のたな卸資産は1,666億円と、同676億円増加しております。

国内ユニクロ事業の8月末の在庫は同208億円増加いたしました。

これは、店舗の什器を高層化し、店頭在庫を増やしたこと、および通年で販売する定番商品を増やしたことなどの影響によります。

海外ユニクロ事業の在庫は、前期末比で385億円増加しております。

これは、8月末の店舗数が香港のグローバル旗艦店を含め同154店舗増えたことと、海外においても店頭在庫や通年で販売する定番商品を増やしていることによります。

グローバルブランド事業の在庫は、同71億円増加しております。

これは、ジーユー事業、セオリー事業の事業拡大に伴って在庫が増加したこと、J Brand事業の在庫を連結したことによります。

為替予約勘定は、負債側で前期末比226億円減少し、流動資産側で1,136億円と増加しております。国内ユニクロ事業では、長期的なヘッジ方針に従って為替予約を行っております。8月末の為替が、保有する為替予約の平均レートより円安となったことより、為替予約勘定が大幅に増加しております。なお、ヘッジ会計を適用しているため損益への影響はございません。

固定資産は、前期末比で751億円増加しております。これは、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業で店舗数がそれぞれ同154店舗、65店舗増加したことにより、有形固定資産が同211億円増加したこと、J Brandを連結したことなどにより、無形固定資産が同398億円増加したことによります。

【連結】2013年8月期キャッシュ・フロー

単位:億円

	2012年8月期 実績	2013年8月期 実績	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	+1,276	+994	
税金等調整前当期純利益	+1,233	+1,415	ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献
減価償却費、のれんの償却額	+243	+340	
運転資金の増減額	+24	▲144	売上債権、たな卸資産、仕入債務の増減の合計額
法人税等の支払い・還付	▲326	▲554	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲353	▲639	
有形固定資産の取得による支出	▲237	▲273	旗艦店や出店拡大に伴う投資
無形固定資産の取得による支出	▲74	▲40	システム投資など
連結範囲の変更を伴う 子会社株式取得による支出	-	▲267	J Brand 買収に伴う費用
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲290	▲239	
長期借入れによる収入	-	+166	J Brand 買収に伴う借入れ
配当金の支払額	▲221	▲283	一株当たり期末配当金130円、 中間配当金140円の支払い
現金及び現金同等物の増加額	639	296	
現金及び現金同等物の期首残高	2,021	2,660	
現金及び現金同等物の期末残高	2,660	2,956	

15

次に、2013年8月期のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、994億円の収入となりました。
主な内訳として、ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献1,415億円と収入
が増加する一方で、法人税554億円や運転資金増で144億円など、
支出が増加いたしました。

投資活動によるキャッシュ・フローは639億円の支出となりました。
支出の主な内訳としては、有形固定資産の取得で273億円、システム投資
などによる無形固定資産の取得で40億円、J Brand買収に伴う支出で
267億円となっております。

なお、連結の設備投資額は396億円、内訳としては、国内ユニクロ事業で
88億円、海外ユニクロ事業で206億円、グローバルブランド事業で63億円、
システム投資で35億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、239億円の支出となりました。
主な内訳としては、J Brand買収などによる借入れ166億円の収入、
配当金の支払額283億円の支出となっております。

以上の結果、2013年8月末における現金及び現金同等物の期末残高は
2,956億円となりました。

【連結】2014年8月期 通期業績予想

売上高 : 13,300億円 (前期比+16.4%)
 営業利益 : 1,560億円 (前期比+17.4%)
 経常利益 : 1,550億円 (前期比+4.0%)
 当期純利益 : 920億円 (前期比+1.8%)

	2013年8月期		2014年8月期	
	通期実績		通期予想	前期比
売上高 (売上比)	11,430 100.0%		13,300 100.0%	+16.4%
売上総利益 (売上比)	5,640 49.3%		6,755 50.8%	+19.8% +1.5p
販管費 (売上比)	4,310 37.7%		5,195 39.1%	+20.5% +1.4p
営業利益 (売上比)	1,329 11.6%		1,560 11.7%	+17.4% +0.1p
経常利益 (売上比)	1,489 13.0%		1,550 11.7%	+4.0% ▲1.3p
特別損益	▲74		▲60	-
当期純利益 (売上比)	903 7.9%		920 6.9%	+1.8% ▲1.0p

単位: 億円

16

ここからは、2014年8月期の業績予想についてご説明いたします。
 売上高は、1兆3,300億円、前期比16.4%増、
 営業利益は、1,560億円、同17.4%増、
 経常利益は、1,550億円、同4.0%増、
 当期純利益は920億円、同1.8%増と、
 増収増益を予想しております。

単位：億円

	2013年8月期	2014年8月期	
	通期実績	通期予想	前期比
売上高 (売上比)	6,833 100.0%	7,280 100.0%	+6.5%
売上総利益 (売上比)	3,180 46.5%	3,500 48.1%	+10.1% +1.6p
販管費 (売上比)	2,211 32.4%	2,355 32.3%	+6.5% ▲0.1p
営業利益 (売上比)	968 14.2%	1,145 15.7%	+18.2% +1.5p

17

ここからは、事業別の業績予想について、ご説明いたします。

まず、国内ユニクロ事業の通期業績予想につきましては、
売上高7,280億円、前期比6.5%増、営業利益1,145億円、同18.2%増と、
増収増益を見込んでおります。

また、前期まで持ち株会社のファーストリテイリングで受け取っていた、
海外ユニクロ事業からの収入の一部を、今期より、
国内ユニクロ事業が受け取る形へと変更をしております。
その影響額は、売上高で約80億円、営業利益では約110億円と
なっております。

なお、連結業績においては、この影響はございません。

【国内ユニクロ事業】業績予想(半期ベース)

単位: 億円

	2013年8月期	2014年8月期		2013年8月期	2014年8月期	
	上期実績	上期予想	前年同期比	下期実績	下期予想	前年同期比
売上高 (売上比)	3,872 100.0%	4,155 100.0%	+7.3%	2,960 100.0%	3,125 100.0%	+5.6%
売上総利益 (売上比)	1,809 46.7%	1,995 48.0%	+10.2% +1.3p	1,370 46.3%	1,505 48.2%	+9.8% +1.9p
販管費 (売上比)	1,119 28.9%	1,235 29.7%	+10.3% +0.8p	1,091 36.9%	1,120 35.8%	+2.6% ▲1.1p
営業利益 (売上比)	689 17.8%	760 18.3%	+10.2% +0.5p	278 9.4%	385 12.3%	+38.2% +2.9p

こちらでは、半期ベースでの業績予想を示しております。

【国内ユニクロ事業】業績予想の前提

	2013年8月期	2014年8月期	
	通期実績	通期予想	前期比
売上高	6,833 億円	7,280 億円	+6.5%
既存店伸び率(通期)	+7.3%	+1.6%	-
上期(予想)	+3.6%	+2.5%	-
下期(予想)	+12.6%	+0.5%	-
直営店舗数純増(通期)	10店舗	10店舗	±0店舗
上期(予想)	4店舗	4店舗	±0店舗
下期(予想)	6店舗	6店舗	±0店舗
売上高総利益率(通期)	46.5%	48.1%(47.5%)	+1.6p(+1.0p)
上期(予想)	46.7%	48.0%(47.4%)	+1.3p(+0.7p)
下期(予想)	46.3%	48.2%(47.6%)	+1.9p(+1.3p)
売上高販管费率(通期)	32.4%	32.3%	▲0.1p
上期(予想)	28.9%	29.7%	+0.8p
下期(予想)	36.9%	35.8%	▲1.1p

※()内は2013年8月期の計上方法による数値

19

国内ユニクロ事業の業績予想の前提ですが、
既存店売上高の伸び率は、上期プラス2.5%、下期プラス0.5%、通期では
プラス1.6%を見込んでおります。

店舗数の純増は上期4店舗、下期6店舗を計画しており、
期末の直営店舗数は844店舗となる見込みです。

売上高総利益率は、通期で48.1%と前年比で1.6ポイント改善する見込み
です。前期までの計上方法にのっとりた粗利益率は通期で47.5%と、
実質ベースでの改善幅は同1.0ポイントを見込んでおります。

販管費比率は、通期で32.3%と、ほぼ前年並みの水準を予想しております。

アジア地区では増収増益続く

- ・中華圏(中国、香港、台湾):
3割以上の増収、営業利益率の改善をめざす
- ・韓国:増収増益も、緩やかな成長率を見込む
- ・東南アジア地区(シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア):大量出店により、大幅な増収増益
- ・オーストラリア:2014年に1号店をメルボルンに出店
今期中に3店舗出店予定

		2013年8月期	2014年8月期		単位: 億円
		通期実績	通期予想	前期比	
海外ユニクロ事業	売上高	2,511	3,500	+39.3%	20
	営業損益 (売上比)	183 7.3%	280 8.0%	+52.6% +0.7p	

次に海外ユニクロ事業の業績予想ですが、売上高は3,500億円、前期比39.3%増、営業利益は280億円、同52.6%増を予想しております。

増収増益の要因といたしましては、アジア地区での出店拡大による成長が続くこと、米国における出店増、および収益の改善があげられます。

中華圏では、中国および台湾での大量出店により、全体で3割以上の増収を計画しております。また、各地域での経費コントロールにより、営業利益率の改善を進めてまいります。
なお、中華圏での出店数は、98店舗を見込んでおり、期末店舗数は378店舗となる予定です。

韓国は、増収増益を見込んでおりますが、景気の低迷の影響を考慮し、緩やかな成長率を見込んでおります。

東南アジア地区では、今期も大量出店を計画しており、大幅な増収増益を見込んでおります。シンガポールで8店舗、マレーシアで12店舗、タイで9店舗、フィリピンで15店舗、インドネシアで3店舗と、東南アジア地区合計では47店舗の出店を予定しております。

オーストラリアでは、2014年に1号店をメルボルンに出店し、今期中に3店舗の出店を計画しております。

米国では本格的なチェーン展開 ドイツ1号店をベルリンに出店

- ・米国：収益改善を見込む
東海岸9店舗、西海岸6店舗出店
5番街店など、NY3店舗中心に収益改善
- ・欧州（英国、フランス、ロシア、ドイツ）：
ドイツ1号店（グローバル旗艦店）の経費増により、
欧州全体で、若干の減益予想
ドイツは最も有望な市場として期待

21

次に米国ユニクロ事業ですが、郊外ショッピングモールを中心に、本格的なチェーン展開を進めてまいります。
今期はニューヨークを中心に東海岸で9店舗、サンフランシスコを中心に西海岸で6店舗、合計15店舗出店する予定です。
一方、5番街店をはじめとするニューヨーク3店舗を中心に収益改善が見込まれることから、米国ユニクロ事業は赤字幅を縮小する見込みです。

欧州では、ロシアで2店舗、フランスで同じく2店舗を出店するほか、ドイツのベルリンに1号店を出店する計画です。
ドイツ1号店はグローバル旗艦店であり、出店前の家賃など経費増が予想されることから、欧州全体での収益は前年比、若干の減益を見込んでおります。

なお、新規出店国となるドイツは、欧州市場での基盤を築く上で、最も有望な市場と期待しております。



2014年8月期グローバルブランド事業 業績予想

ジーユー、セオリー事業で拡大

- ・ジーユー:売上高は1,000億円以上、利益率アップを見込む
- ・セオリー事業:世界各地で49店舗出店
最高益の更新めざす
- ・コントワー・デ・コトニエ事業:前期比ほぼ横ばいの業績
- ・J Brand:10月に直営店1号店をオープン

単位: 億円

		2013年8月期	2014年8月期	
		通期実績	通期予想	前期比
グローバルブランド事業	売上高	2,062	2,500	+21.2%
	営業損益	174	240	+37.4%
	(売上比)	8.5%	9.6%	+1.1p

22

次にグローバルブランド事業の業績予想ですが、売上高は2,500億円、前期比21.2%増、営業利益は240億円、同37.4%増を予想しております。

ジーユー事業では、既存店売上高の増収が続くこと、70店舗の出店により、売上高は1,000億円以上をめざし、収益率のアップを見込んでおります。
なお、9月30日にオープンしたジーユー上海店は大変盛況で、今後も海外への出店を積極的に検討していきたいと思っております。

セオリー事業では、世界各地でセオリーを30店舗、PLST10店舗など、49店舗の出店を見込んでおり、今期も最高益を更新をすることをめざしております。

コントワー・デ・コトニエ事業は前期比ほぼ横ばいの業績を見込んでおります。

J Brand事業では、昨日、10月9日に阪急うめだ店へ直営店1号店をオープンいたしました。今期は、直営店の出店を含め、事業の拡大をめざしております。また、引き続き、グループブランドとのシナジー効果を最大化していきたいと考えております。

2014年8月期 グループ事業別 業績予想

単位：億円

		2013年8月期	2014年8月期	
		通期実績	通期予想	前期比
国内ユニクロ事業	売上高	6,833	7,280	+6.5%
	営業利益	968	1,145	+18.2%
	(売上比)	14.2%	15.7%	+1.5p
海外ユニクロ事業	売上高	2,511	3,500	+39.3%
	営業利益	183	280	+52.6%
	(売上比)	7.3%	8.0%	+0.7p
グローバルブランド事業	売上高	2,062	2,500	+21.2%
	営業利益	174	240	+37.4%
	(売上比)	8.5%	9.6%	+1.1p

注：連結業績には上記のほか、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。

グループ事業別の業績予想はこちらの通りとなっております。

2014年8月期 配当金予想

**2013年8月期 年間配当金 290円を見込
2014年8月期 年間配当金 300円を予定**

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2012年8月期	130円	130円	260円
2013年8月期（従来予想）	140円	140円	280円
2013年8月期（修正予想）※1	140円	150円	290円
2014年8月期（予想）※2	150円	150円	300円

※1：2013年8月期の期末配当金は、2013年11月4日開催予定の当社取締役会での決議を前提としています。

※2：業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、配当金額を変更することがあります。

最後に、配当金についてご説明させていただきます。

2013年8月期の期末配当金は、連結業績の結果を踏まえ、

140円から150円へと10円増配させていただきます。

中間配当金140円と合わせ、年間の配当金は290円を見込んでおります。

2014年8月期の配当金につきましては、中間配当金150円、期末配当金150円と、合せて年間で300円を予定しております。

以上で私からの説明を終わります。ありがとうございました。

連結対象会社別出退店 実績・予想

【単位：店舗】	12年8月	2013年8月期末			2014年8月期末 予想				
	期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1137	210	48	+162	1,299	252	41	+211	1,510
国内ユニクロ事業：※	845	51	43	+8	853	54	41	+13	866
直営店	824	50	40	+10	834	51	41	+10	844
大型店	147	33	3	+30	177	27	2	+25	202
標準店等	677	17	37	▲20	657	24	39	▲15	642
FC	21	1	3	▲2	19	3	0	+3	22
海外ユニクロ事業：	292	159	5	+154	446	198	0	+198	644
中国（除く香港）	145	83	3	+80	225	80	0	+80	305
香港	16	2	0	+2	18	3	0	+3	21
台湾	17	20	0	+20	37	15	0	+15	52
韓国	80	27	2	+25	105	30	0	+30	135
シンガポール	7	5	0	+5	12	8	0	+8	20
マレーシア	5	5	0	+5	10	12	0	+12	22
タイ	4	6	0	+6	10	9	0	+9	19
フィリピン	1	5	0	+5	6	15	0	+15	21
インドネシア	0	1	0	+1	1	3	0	+3	4
オーストラリア	0	0	0	0	0	3	0	+3	3
英国	10	0	0	0	10	0	0	0	10
米国	3	4	0	+4	7	15	0	+15	22
フランス	2	1	0	+1	3	2	0	+2	5
ロシア	2	0	0	0	2	2	0	+2	4
ドイツ	0	0	0	0	0	1	0	+1	1
ジーユー事業	176	60	22	+38	214	70	7	+63	277
セオリー事業※	373	53	15	+38	411	49	1	+48	459
コントワー・デ・コトニエ事業※	383	10	18	▲8	375	4	6	▲2	373
プリンセス タム・タム事業※	153	2	5	▲3	150	5	2	+3	153
J Brand	0	0	0	0	0	2	0	+2	2
総 合 計	2,222	335	108	+227	2,449	382	57	+325	2,774

注：ミナナ事業、グラミンユニクロ事業は含まず ※フランチャイズ店は含む

【連結】2014年8月期上期業績予想

	2013年8月期	2014年8月期	
	上期実績	上期予想	前年同期比
売上高 (売上比)	6,148 100.0%	7,330 100.0%	+19.2%
売上総利益 (売上比)	3,039 49.4%	3,705 50.5%	+21.9% +1.1p
販管費 (売上比)	2,073 33.7%	2,665 36.4%	+28.6% +2.6p
営業利益 (売上比)	966 15.7%	1,040 14.2%	+7.6% ▲1.5p
経常利益 (売上比)	1,077 17.5%	1,035 14.1%	▲4.0% ▲3.4p
当期純利益 (売上比)	654 10.6%	635 8.7%	▲3.0% ▲2.0p



＜ご参考資料＞

為替レート、設備投資、減価償却費、のれん償却費

適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2012年8月期 通期(12ヶ月平均)	78.6	103.9	124.3	12.4	6.9
2013年8月期 通期(12ヶ月平均)	89.8	117.3	140.2	14.5	8.1
2014年8月期 通期予想レート	94.0	120.5	143.0	15.0	8.5

設備投資 減価償却費 のれん償却額

単位：億円

	設備投資	減価償却費	のれん償却額
2012年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	401	185	56
2013年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	396	236	52
2014年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	584	262	60

設備投資内訳

2013年8月期実績： 国内ユニクロ 88億円、海外ユニクロ 206億円、グローバルブランド事業 63億円、システム他 35億円

2014年8月期予想： 国内ユニクロ 98億円、海外ユニクロ 320億円、グローバルブランド事業 103億円、システム他 57億円